

『遡る』 作：ポチ子

『遡る』 作：ポチ子

威張り腐っているあの人も、

後輩に嫌味を言う上司も、

態度の悪い客のババアも、

怠けて文句ばかり言うあいつも、

家に帰れば、

父で、母で、夫で、妻で、息子で、娘で、

のんきな顔して暮らしている。

もしかしたら私が知らないだけで、

私の家族も、

外では嫌な奴だったりするかもしれない。

誰かの悩みの種になって、

傷つけて、泣かせているやつかもしれない。

自分が誰かを傷つけていないから、

それで全部大丈夫だと思っていたけど、

そういうわけじゃない気がする。

だって、自分の先祖が嫌な奴じゃなかったと、

自信を持って言えない。

私は嫌な奴の血を引いているかもしれないし、

今日電車で隣に座った人は、

嫌なことをされた人の、

生まれ変わりだったりするかもしれない。

今の私とは関係ない話だと無視したら、

傷つけられた人の辛さは、

どこに行ってしまうんだろう。

アホらしいと思うけど、

なんとなく、

意味のない罪悪感が積もる。